

2022

REPORT
Vol.02



俵山ビレッジ

CONTENTS

目次

01

俵山ビレッジ

健康をテーマにローカルで人や文化を育む試み

02 PART 1

PEOPLE

吉武 大輔
三ツ木 あずき
井上 恵輔
浅沼 和馬

10

西の横綱 俵山温泉

本物の温泉が残る秘湯

12

俵山ビレッジMAP 2022

14 PART 2

PEOPLE

西田 あかね
儀間 克友
松本 典子
井澤 美空

20

俵山ビレッジ活動レポート 2022

22 PART 3

PEOPLE

安藤 美祐
杵鞭 和也
町田 美由紀

28

Entrance

2023年早春、待望の飲食スペースが完成

30 PART 4

PEOPLE

伊東 美佳
大西 芽衣
鎌形 泰 / 美砂子

36

MURABITO

俵山ビレッジと、もっと幸せで豊かな暮らしをつくる

発行

株式会社 Community Consulting Japan

〒759-4211 山口県長門市俵山5183-3

Tel. 070 8414 2525

Mail info@ccj.works

Web www.ccj.works



俵山ビレッジ
LINEスタンプ
発売中!



秘湯を守る自然豊かな湯治場の町に育まれるコミュニティ

健康をテーマに ローカルで人や文化を育む試み

揺れ動く世界情勢の中、あらためて人と人の繋がりが強く求められている。

地域と風土に根ざして生きる人を、共に暮らしながら育むことで、共同体を次の世代へ繋いでいく。
地方や都市部を分けず大きな一つとしてとらえ、命ある営みを生み出す発信源をこの俵山につくりたい。

私たち俵山ビレッジは、今ここから、そのような思いを抱いて日々活動しています。



俵山ビレッジ

人はコミュニティをつくり、

コミュニティは人をつくる

私たちが人を育む活動を俵山で始めて2年目。
興味を持ち訪れる人や暮らしに関わる人、
移住して共に暮らす家族、多くの人に支えられ、
地域を活かす新たなコミュニティが息づき始めました。

繋がりの中で生きる私たちは、芽生え始めた営みと人の成長を、
この俵山の地で皆さんと共にしていきたいと思っています。

吉武大輔

(株)CCJ 代表取締役

地域との縁ができた一年

俵山ビレッジの開村から2年が経過し、気がつけば住民は11名、多拠点生活をしているメンバーも加えると、合計15名という大所帯のコミュニティになりました。

2022年の暮らしを振り返ると、地域との縁ができた一年だったと感じます。コロナ禍の真っ只中に移住してきたため、当初は地域の行事や集まりごとも少なく、地域の方と繋がる機会がほとんどありませんでしたが、温泉に通ううちに顔見知りになったり、地域のお祭りやご神事、清掃活動などに、積極的に参加したことで、地域の方の顔と名前が一致し、地域の方からも

認識をしていただけるようになったのは、大きなきっかけになったと思います。「こんな山奥に、よう引越してきたねえ」と歓迎をしてくださる土地だからこそ、自然と人が集まってくるのだと思います。個人的にも、たわらやまの旅と未来会議という地域団体の理事に就任し、俵山に生きる若手として、地域の方から期待していただけるまでになりました。

一方で、全国から各分野の第一線で活躍されている先輩方や、古くからの友人、俵山ビレッジの存在を知って訪れてくれる方も増え、2022年は約800名の方が俵山に訪れてくださいました。

よしたけ だいすけ 1986年山口県出身。23歳の時に起業し、累計7社の法人を創業、4冊の本を出版。幕賓(ばくひん)、事業家、作家、教育者、コミュニティコンサルタントなど、多様な役割を持ちながら、西の横綱と呼ばれる俵山温泉を舞台に、俵山ビレッジというコミュニティを運営している。

コミュニティとは人であり、どんな人たちがどんな思いで生きているのかによって、文化や雰囲気が決まります。お陰様で、俵山ビレッジにはとてもいい空気が流れていますので、遊びにいらして下さいね。

人生で最も大切な健康を担う

「俵山ビレッジは、どんな場所ですか?」と聞かれた時にお伝えしているのが、「健康のデイズニールランドを目指している」ということです。昔から続く湯治場の文化を大切にしながらも新しい時代に合った本物のコンテンツを体験できる、中長期滞在型のコミュニティを目指しています。

その理由は、湯治場に住み始めたことで、健康の大切さを再確認したからです。どれだけお金や時間があり、人間関係や仕事に恵まれていても、健康面に課題があれば、心の底から笑って、人生を楽しむことが難しくなります。人生

の根幹でありながら、ほとんどの人が正しい知識を持っていない健康について、1000年愛され続けている俵山温泉から発信し続けていきます。

オーガニックな畑としてのコミュニティ

次世代のことを考えながら日々を丁寧に暮らすことで、自分たちの感性も磨かれ、住環境もどんどん充実してきました。「本当にすべきことをしている時、見えない力が導いてくれる」そんなことを感じさせてもらった二年でもあります。暮らしに必要な情報や機会が集まっている今、人さえいればできることが増えているので、プロジェクトメンバーを随時募集しています。



コミュニティはオーガニックな畑だと思っています。関わる人たちがタネで、タネが育つための土壌がコミュニティです。コミュニティが豊かであれば、そのコミュニティに関わる人も豊かになります。一方で、コミュニティが枯れていけばタネも育ちづらかったり、育ったタネが自分のことだけを考え、コミュニティから受け取ったものを還元させなければ、コミュニティは力を失ってしまいます。私たちは循環の中に生きているということを、肌感覚で

体感できるのもコミュニティで生きる醍醐味の一つだと思います。

今年から、遠方の方も俵山ビレッジに参加できるようにMURABITOというオンラインメンバーシップもスタートしました。3年目の俵山ビレッジは、より多くの方に関わってもらいながら、子育てを中心としたコミュニティの現に向けて活動を続けていきます。是非みなさんも、暮らしと一緒に作っていく家族として、関わっていただければ幸いです。

地域の活性化を舞台に人材の教育に取り組む活動
2023年へ向け若者達はどのような成長を歩むのか

地域や仲間との繋がりの中で日々成長しながら
俵山ビレッジで暮らすメンバーを紹介します



自覚と覚悟

俵山ビレッジの一員としての

三ツ木 あずき

俵山ビレッジ 管理人

ファミリーからコミュニティに

この一年で一番変化したと感じたことは「ファミリーからコミュニティに進化したこと」です。2022年3月に、まぎー、みゆ、むっちの3人が移住してきたことにより、2棟目のシェアハウス「喫茶呼（きっさこ）」がオープンしました。シェアハウスが1棟だった時には、毎日全員と顔を合わせるのが当たり前で、互いに生活の中で向き合いながら、時に喧嘩し、時に受け入れ合いながら血縁を超えた本当の家族のような関係性を築いていました。しかし、シェアハウスが2棟になったことにより、互いがどのように暮らしている

のか、どんな気持ちを抱えているのか、「知ろうとしない」とわからない」という状況になりました。意識しないと関係性を築くことができないというその状況は、当時の私にとっては、もどかしく、葛藤もありました。でもある時、ふと、「これがコミュニティか」という経験をしました。それは、「お互いがお互いを信頼することで、俵山ビレッジ（コミュニティ）が進化していく」ということです。このとき初めて「コミュニティを作っている」という実感がわいたことを鮮明に覚えています。「家族」という密で小さな共同体から、「コミュニティ」という同じ方向へ向かう、大きな共同体へ進化しているのだと感じた瞬間でした。

みつぎ あずき 2001年宮崎県生まれ。2020年4月、北海道へ進学。コロナ流行のため、一度も大学へ行けない半年間を過ごし、旅に出る。旅行中に吉武大輔に声をかけられ俵山に出会い、大学退学と移住を決め、コミュニティの立ち上げに従事。管理人としてボラスタや滞在者の受け入れ、移住相談、情報発信などを行いながら、個人事業である若者キャリアサポートWingとしての活動も行う。



自らが一番の実践者となること

私は昨年と比べ、約10キロ体重が落ちました。見た目はもちろん、肌艶や体力にも見違えるほどの変化が起きました。痩せるきっかけとなったのは、俵山ビレッジが「健康」をテーマにしたコミュニティを目指しているということでした。「健康を大切にしているコミュニティを作っている自分が健康じゃないって、本末転倒では？」と思い、自分の身体を見直すことを決めました。俵山にきた当初は、初めての一人暮らしとコロナ生活で食生活が乱れ、味覚も感覚も完全に麻痺し、2021年3月が人生で一番太っていました。「現代人は食べ過ぎなんよ。お腹空いたは、幻想やけん。」と発起人である大ちゃんから言われ、1日3食食べていたのを1日2〜1.5食へ。水を1日1.5リットル飲み、砂糖の入ったお菓子を食べることをやめ、1口30回噛むことを習慣化しました。やったこ

とはそれくらいで、運動をしたわけでも、無理な食事制限をしたわけでもなかったのに、かなり快適に身体を変化させていくことができました。気づけばそれが当たり前の生活習慣となり、体質も大きく変わりました。まずは自分が誰より実践すること。その大切さを学んだ一年でした。

コミュニティに関わる人の変化

住人が増え、俵山ビレッジへ滞在してくださる方も目に見えて増えた一年でした。昨年俵山を訪れてくださった多くの方は、吉武大輔はじめ俵山ビレッジメンバーの知り合いでしたが、今年は直接繋がりが無い方も多く訪れてくださるようになりました。最近では大学生や20代前半の同世代からの問い合わせも増え、私のビジョンである同世代へ新たな生き方や働き方を伝えていく一歩を歩み出すお手伝いも少しずつ

実現し始めています。特に、MURABITOのリリース直後から、移住相談や滞在予約がとて増えました。私たちが知らないところで「俵山ビレッジ」が歩き始めたことをとても実感しています。関わる人が多様化したり、様々な関わり方が生まれたことで、暮らしがより豊かにもなりました。関わってくださる全ての方の経験と価値観が調和され、レベルアップしていく俵山ビレッジをこんな近くで感じられることがとても幸せです。





やりたいことではなく

求められることに応えて生きる

井上恵輔

ちいき不動産 代表

地域に愛され育ててもらっている

2021年の2月から俵山に移住して、2年が経とうとしています。会社を辞めて移住したので仕事はありませんでしたが、地域で生活をするとたくさんのお仕事があることを知りました。初めは人手が足りず若いからという理由で、シェアハウスの子たちに頼んでみようという形でしたが、徐々に徐々に信頼が積み重なっていき、今では、「困ったことがあったらシェアハウスの子に頼めば何とかなるだろう」という風に思っていただけにいるようで、どこからか噂を聞いて個人的にも連絡が来ることも増えてきました。しか

し、もちろん初めはそんなことばかりではなく、色々なことを言われたり、勘違いをされた噂が流れたこともありました。そこから地道に、地域の行事に参加して仲良くなるなかで、少しずつ信頼してもらえるようになっていきます。突然ですが、俵山には「俵山の母」のような存在の方がいます。個人的に、その人にはしょっちゅう叱ってもらっています。間違ったことをしていたり、態度をとったりするといつも「恵輔、違う！ なつとらん。謝りなさい」と正してもらえるんです。本当に愛されててありがたい話ですよ。僕たちは地域にすごく愛してもらっているという自覚があります。

いのうえ けいすけ 福岡県久留米市生まれ。大学卒業後、山口県の不動産会社に就職。約3年間、売買営業を経験し、宅地建物取引士を取得後に退職。2021年2月から山口県長門市俵山に移住。1年間で不動産4棟の取得に貢献。不動産を専門性に、コミュニティマネージャーとして地域とコミュニティの2軸で活動中。

周りの声に応える

地域で生きる中でご縁をいただいた、猪と鹿を扱うジビエの解体業と、前職で培った専門性を活かして、地域の不動産屋「ちいき不動産企画」の活動を昨年の後半から始めました。本当にありがたいことに、やりたいことをやって自分らしく生きさせてもらっているのですが、それは、地域で生きの中で、求められることを好きになるという感覚を知ったからだと思います。求められることに応えているうちに、最初は興味がなかったとしても、面白さや希少性を見出し、自分ごととして考えていけるようになってきました。今の自分には何が求められているのか、周りの声と自分の声を丁寧に聞いていて、その声に応えていくと自ずと自分の道が見えてきます。今では、「チャンスはどんな人にも訪れている」と感じるのですが、過去の自分は「これじゃない、あれでもない」と言って、自己都合で判断してしまい、自分の本心も周

りの声も聞こえなくなってしまう時期もありました。周りから求められることは、必ずしもやりたくて、楽なものではないことがほとんどです。「え、これ受けたら大変だなあ…ちよつとやだなあ」と思うことがあっても、実はそれらに応えた自分になれば、その後の人生に大きく影響することを確信しています。

ちいき不動産の2023年

2023年は俵山ビレッジが3年目に入ります。移住組、多拠点生活組を含めると15人まで拡大していて、来年は節目の年になると感じています。会社勤めで3年目と言えば、後輩ができ、新人といえるのも最後の年で、中堅に差し掛かる代になります。2023年の活動がその後の基盤になるからこそ、しっかりと今まで以上に自分の役割を自覚し、進めていきます。具体的には、俵山の空き家や不動産の調査を行い、移住を検討

している人に情報が開示される基盤を作っていく予定です。また、より地域に入り込み、地域・俵山ビレッジ・行政・移住者の橋渡しとなるような人材となっていくしますので、みなさん期待して下さい。





“あるものを活かす”

地域クリエイター

浅沼和馬

映像クリエイター／廃材アーティスト

“人間修行の場” 俵山ビレッジで1年目

2021年の9月から俵山ビレッジの活動に参加してすごく感じるのは、人間的な修行の経験をしているということです。元々自分は人と関わるのは得意ではないのですが、コミュニティで暮らす上では人と関わることは必須。人間関係を常に考える必要があります。仕事も自分で作るしかなく、フリーランスとして独立した1年目は、自分の好きを仕事にするとはどういうことかという大変さも、素晴らしい味わいました。そして自分が担当した改修作業でも思いだけではうまくいかず、理屈も感情もすっかり整理して進めていく必要があ

り、当初は改修作業をやるにも中々に進まなかったのはいい経験になりました。一番自分が成長したなという機会は、3月に行われた「リノベーションウィーク」です。全国からボランティアスタッフが集中的に集めて、改修作業を一気に進める期間のことですが、10日間の工程に集まった人は総勢30人。「どうやったら工程が早く進むか」よりも「どうやったら全員に作業を行き渡らせることができるか」に頭を悩ませられました。苦悶の末にしっかりと対応が完成イメージと工程表をつくるということでした。今まで行き当たりばったりだった作業が、完成イメージがあると周囲への指示も伝わりやすくなり、満足度として

あさぬま かずま 1996年生まれの27歳。秋田県秋田市出身。現在は映像制作・大作業の分野でフリーランスとして活動中(2022年現在2年目)。部屋の内装リフォーム、地域のプロモーション映像が得意。2021年9月から俵山ビレッジに参加し、1年目はコミュニティカフェEntranceの改修担当を行った。



も大成功に終わりました。それ以降、作業をする場合は計画を立てて、そこに思いのせる仕事ができるようになりました。この技術が身について、自分の人生において、とても大きいです。

自分のスキルを試しに全国周遊で自由研究

Entranceの改修がひと段落した2022年6月から、前からしたかった全国周遊の旅に出かけました。旅といっても、ゲストハウスを巡ろう！とかそういうものではなく、自分のできることをどれだけ活かせるかに挑戦する旅です。映像製作とリフォーム

依頼で呼ばれたところを訪れながら、合間の時間で建築のワークショップに出たり、ボランティアをやったり、大好きな山に登ったりと、自己欲求が満たされて、目の前の人に貢献していく凄く充実した期間でした。この期間で一番印象的だったのは新潟の古民家の内装リフォームで、特に和室の欄間と廃材を使用した小上がりを作成したときに、手応えと価値を感じました。誰も作ることがない、独創的な場を、その地域にあるものを活かして、作っていく。この旅を通して自分が気づくことができたのは「廃材と古材を使った内装事業をしたい！」というものでした。

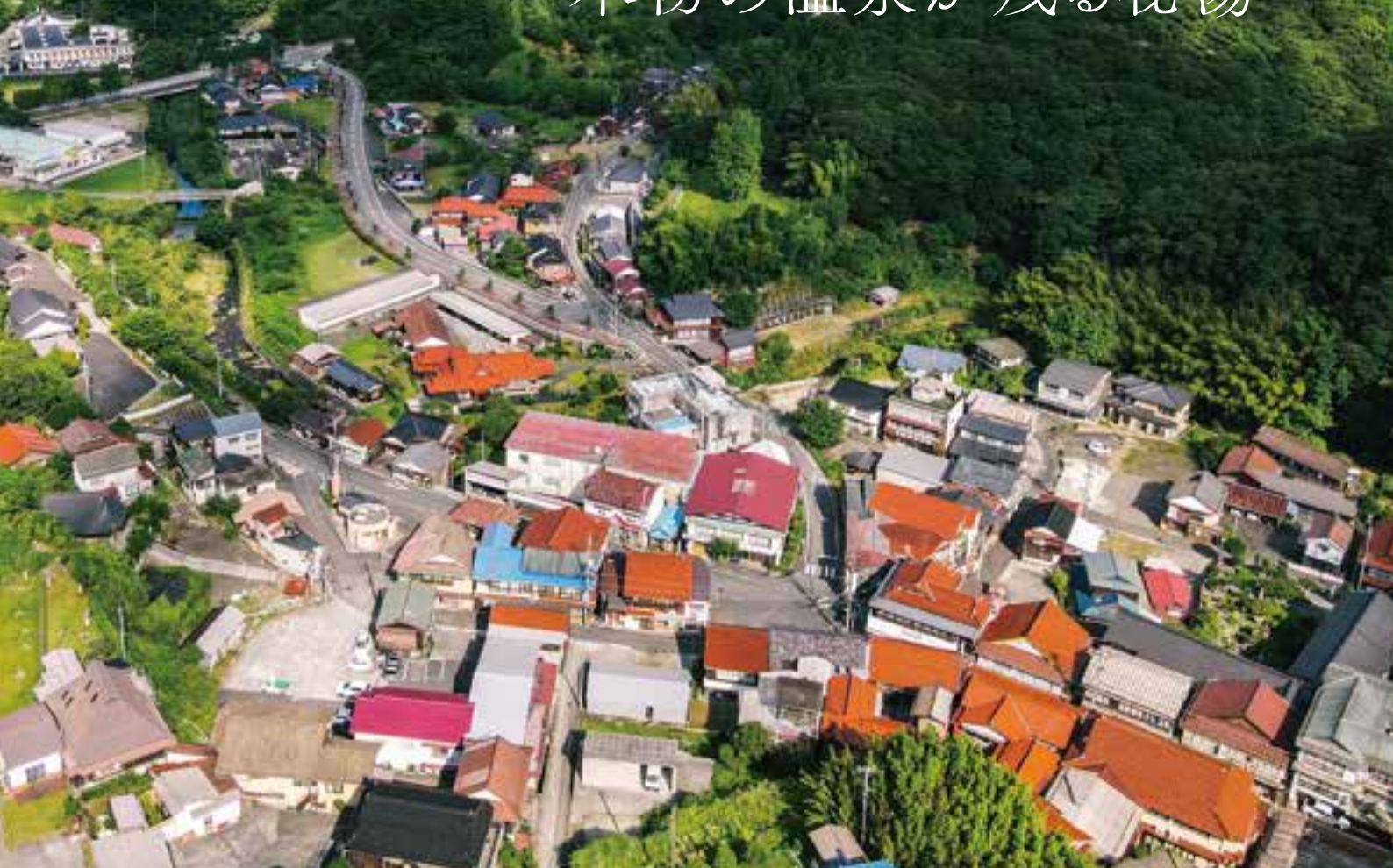
これからの将来像

着実に進んでいるように見えるけれど、日々自分と向き合っている毎日です。今のプランでは、26歳から30歳までは自分の映像と内装事業で信頼を積み重ね、自営業を確立した後、30代半ばまでには、自分の事業をチーム化することを目標にしています。古材の内装リフォーム業を職人や設計士さんと共に行うことで、より規模の大きなことができるとは思っていないかと考えています。その道が厳しいこともわかっていますが、楽しみながら取り組んでいきます。最終的に自分が目指すところは、「山との心地よい暮らしづくり」です。山の中に気持ちの良い家を作って、住んで、沢山太陽を浴びて、美味しいものを食べる。その中で心地の良い人たちと暮らしていく。そんな暮らしを育みながら、次世代の子どもたちへ、自然の重要性を伝えられる役割を担えたらと思っています。

西の横綱 俵山温泉

TAWARAYAMA ONSEN

本物の温泉が残る秘湯

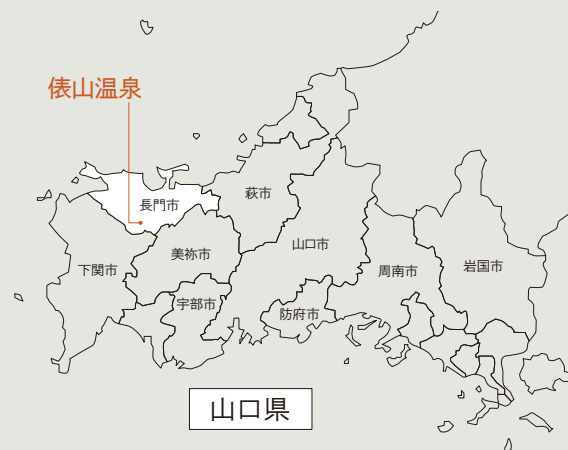


山口県長門市、日本海にほど近い中山間地域に位置する俵山温泉。1100年前に発見されたこの温泉は、「西の横綱」と呼ばれるほどの効能を持ち、根強いファンが訪れる日本有数の湯治場である。

俵山温泉には五つの源泉(正の湯・町の湯・川の湯・森の湯・古屋河内湯)があり、加水・加温・循環・塩素消毒なしの源泉掛け流しの贅沢なお湯を楽しむことができる。加えて、自然湧出であること、飲泉が可能であること、抗酸化力が高い(湯の鮮度が保たれる)こともふまえると、温泉大国日本においても、他に類を見ない大変貴重な温泉であると言える。

俵山温泉の最大の魅力は、江戸時代から続く外湯の文化とその町並みにある。浴槽を広くすればその分客は入るが、泉質がどうしても落ちてしまう。湯宿を必要以上に増やさず共存共栄の文化を守ってきたからこそ、今の俵山温泉が継承されている。

また温泉だけではなく、春の新緑、夏の蛍、秋の紅葉、冬の冬景色など、四季折々の風情を楽しむことができる。



シェアハウス 喫茶呼

子供やお年寄りに「気軽にお茶を飲みに来て欲しい」そんな思いのある家。俵山や周辺地域の人と様々な活動をするこも。秘密の地下室あり。



俵山ビレッジ MAP 2022

色々なテーマや機能を持った多数の拠点やフィールドを、地域のご縁をいただきながらメンバーの皆で作っています。
興味のある方はご一緒にしましょう！ご連絡お待ちしております。



シェアハウス cococara

短期から中期の滞在者や移住希望者向けの現代版長屋&寺子屋。
ここで暮らしながら、ここから俵山ビレッジや地域と触れ合うことができる。



体験施設 HANARE (準備中)

自然栽培の畑やパーマカルチャー的アクティビティのフィールド。
納屋を改装した作業場や手仕事ワークショップの工房なども作られる予定。



F/G プロジェクト予定地 (準備中)

色々な面白いプロジェクトを計画中！
オンラインコミュニティのMURABITOや沢山の仲間達と一緒に、俵山ビレッジにどんどん新しい拠点を増やしていきます。

シェアハウス 灯炬庵

正福寺という寺の宿坊だった場所を譲り受けて始めた1棟目の家族の家。名前には「暗闇の中でも絶えることのない光」という意味が込められている。



A



コミュニティカフェ Entrance

B

俵山地域内外の縁を紡ぐ拠点として様々な役割や機能を持った複合施設。ビレッジの活動や仲間と地域の魅力を育み発信していきます。





俵山とコミュニティの

可能性を感じる日々

西田あかね

コミュニティディレクター

東京暮らしでは想像できなかった豊かな暮らし

自然豊かな俵山温泉に暮らし始め、2年が経ちました。朝は鳥の声、昼には木々の音、夕暮れにはひぐらし、夜には鈴虫や鹿の声が聞こえ、静けさの中で心地よい賑やかさに包まれて暮らしています。春はお花見、夏には海、秋には焼き芋を食べ、冬には温泉に入る。このような環境で暮らすことで、より自然体で、広い視点から物事に取り組むことができるのも俵山の魅力の一つです。仕事は基本的にオンライン中心ですが、オンライン会議と会議の合間には、自然の豊かさや心地よさを感じることができています。仲の良いおばあちゃんや旅館の女将さん、

地域の方々からの頼まれ事に応えたり、反対にこちらをお願い事や困っていることを助けていただいたりしながら、地域のみなさんとの交流を深めています。

俵山ビレッジには月に平均20名、多い時には50名のゲストが訪れます。代表吉武のご縁を中心に、様々な業種の経営者、世界をまたにかけて活躍する施術者、統合医療を伝えるヨギーニ、一流の寿司職人、作家、編集長、映画監督、クリエーター、アーティスト、元子役、鑑定士、ライター、ソーシャルワーカー、サハラマラソン・ジャングルマラソンの経験者、個人で累計の資金調達額が100億を超えるコンサルタント、起業を目指す大学生、地方創生の立役者、子ども達

にしだ あかね 山口県防府市生まれ。大学卒業後、人材業界にて採用支援を行うと共に人材紹介事業部の立ち上げ・マネジメントを経験。その後、医療系データ会社にてCS 調査、マーケティング、営業職に従事。ファミリーリンク(株)設立後、イベント・リトリート事業、コミュニティ・スクール事業の企画・運営を開始。現在はCCJ 全体の活動を支援すると共に依山ビレッジの一員として地域貢献や事業作りに参画。



の心を驚掴みする人形劇師、セラピスト、コーチ、シングルマザー、会社員など、普通に生活しているだけでは出会えない多様な方々と出会うことができます。訪れた方々は依山温泉で体も心も解放され、寝食を共にすることで人と土地のご縁も深まり、依山温泉のファンが増えていくことを体感しています。会社勤めをしていた頃の私からは想像も出来ない程の豊かさを生み出してくれる毎日です。

人と人の間に生まれる奇跡

地域から求められること、依山ビレッジのVISION、自分自身のVISION。この3つが重なり合った価値観を持つ人たちが、依山ビレッジに住んでいます。ただ、そうであったとしても、高齢化・過疎化の進んでいる中山間地域で、仕事を創り出すことは容易いことではありません。自分は何がで



きるのか、何が得意なのか、何を求められているのか、何をしたいのか。「何」が見つかったとしても、上手くできなかつたり、失敗したり、人に迷惑をかけてしまったり、時間が足りなかったり、仲間とぶつかったり、やる気が起きなかつたり、見つけたはずの感覚を信じられなくなってしまうたり。豊かに暮らしている中にも、一人一人の中では葛藤を抱えながら日々を生きる移住者の姿を、地域の人たちは見守っ



てくださいっていて、「よくがんばっているね」という声をかけていただけるのが何よりも安心につながっています。またコミュニティにおいても、誰かが悩んでいる時には、話を聞き、状況や気持ちの整理を手伝い、気づきをフィードバックしたり、叱咤激励を送りながら関わり続けています。葛藤を乗り越えた先には、今まで見えなかった次元の世界に気がつき、仲間の有り難さを再認識し、より関係性が深ま

る。葛藤しながらも前進していく仲間を側で見させてもらうことで、人の成長や可能性に感動する毎日です。人と人の関係性を深め、一人では体験することができなかった奇跡のような出来事に出会っていく。コミュニティの醍醐味はまさにそこにあり、その様な仲間が増えていくことを願っています。



コミュニティで

安心安全な食をつくる

儀間 克友

半農半ツボ屋

俵山ビレッジとの出会い

学生時代まで沖縄で育ったせいか都会に憧れがあり、18歳の時に就職で都会に出ることにしました。ですが憧れていた都会での生活は想像とはかけ離れたもので、終わらない競争に疲れてしまい、34歳のときに退職しました。これから先、どんな風に生きていくかを模索していた時に、沖縄で子供を軸にしたコミュニティをつくり、半自給自足の生活で豊かに暮らしている姉に相談すると、山口県田布施町で大下充億（あつお）さんという、面白い生き方をしている人がいるからと紹介してもらいました。大下さんと出会い、今までの自分の価値観が大きく崩れたのを今でも覚えています。

日本や世界のインフラや経済が止まったとしても、田布施での生活はほぼ変わらないという話を聞いた時には、ものすごい安心感を感じました。大下さんの人柄も考え方も魅力的で、なにかの形で関わりたいと模索していたら、自然農の田んぼのスタッフとして2023年4月から関わらせてもらえる事になりました。4月までの空白の時間をどうしようかと思っていたところ、知人の紹介で俵山ビレッジを知り、2021年11月に初めて俵山を訪問しました。大ちゃんに俵山を案内してもらい、会話をしているうちに感じるものがあり、出会って数時間後には「住みたい」と伝えていました。年末にはボランティアスタッフとして、俵山で旅館

ぎま かつとも 1985年沖縄県生まれ沖縄育ち。高校卒業後自動車部品製造業に15年ほど勤める。「幸せに生きるとはどういうことか?本当の安心とは何か?」を考え、持続可能なコミュニティでの生活を決意し退職。2023年4月から山口県田布施町で米作りを学ぶため、自らの力を伸ばすべく俵山ビレッジへ一年限定で移住。足つば、つば焼き芋に取り組みながら、畑を担当。



のお手伝いをさせて頂き、旅館の旦那さん女将さんにとても良くして頂きました。その他の地域の方々も外部から来た自分に対して、とてもフレンドリーに接してくださり、居心地の良さそうな地域だなというのが印象的で、俵山ビレッジのメンバーもキラキラしていて楽しそうに生活していて、地元の人と移住者コミュニティがきちんと繋がっているのもすごいと感じました。

俵山での活動

俵山へ移住してからは、HANA REという母屋と納屋と畑が一緒になっている物件をより良くするための活動を中心にしています。畑は瓦礫が多く、土は粘土質で、獣害もあり、野菜を育てる上での環境は厳しいですが、知恵を出し合いながら季節ごとの収穫物に感謝しながら、改善を加えています。また、個人的な

活動として、足つばと、つば焼き芋を提供しています。足つばは湯治場と相性が良く、少しずつですが受けて下さる方も増えています。焼き芋は俵山の農家さんが大切に育てたさつま芋を譲っていただき、壺を使い、じっくり時間をかけて焼いています。さつま芋のポテンシャルを最大限に引き出し、甘くてトロトロの美味しい焼き芋が食べられますので、是非食べにきてください。

コミュニティで役割を全うする

今後は田布施町という場所でお米作り、さつま芋作りをしながら、リースクールの子ども達や親御さんと関わりながら、安心安全な食を作る人としての役割を楽しみながら全うしていきます。俵山と同じ県内なので交流をしながら新たな風を送りあえたら、お互いより豊かなコミュニティに進化しつづけられると思うと楽しみです。俵山ビレッジは人生を豊かに生きていく土台を体験することが出来る場所だと思えますので、ぜひ遊びにきて下さい。

長期滞在 × 多拠点生活



松本典子

2022年7月からボランティアスタッフとして滞在させて頂いています。最初は1ヶ月の滞在予定で来たのですが、さまざまなご縁で、2023年の3月まで約8ヶ月、滞在させて頂くことになりました。私は、2007年にオーストラリア、2009年はバリで約3年間生活していましたが、そこでのコミュニティの生活を通じて、今までの価値観、考え方などが180度ひっくり返りました。その頃に、日本にもさまざまなコミュニティがあることを知り、帰国した時に巡りたいなと思うようになります。

2021年11月に帰国し、2022年4月に熊本の三角エコヴィレッジサイハテに約1ヶ月ゲストハウススタッフとして滞在している時に俵山ビ

レッジの事を聞き、行ってみたいなと思ったのがきっかけです。俵山に来てからは、民泊やりノベーションのお手伝いを中心に、今までした事ない事を色々と経験させて頂いています。俵山ヴィレッジは始まってまだ2年くらいの新しいコミュニティで、最初の土台となる部分に携わらせてもらえるのも貴重な体験です。俵山ビレッジに住んでいる人たちも多種多様でキャラが濃く、出身地、職業等バラバラ。またゲストで来られる方や、湯治・リトリートで来られる方も増え、色々な方等と話す機会も多く楽しいです。ぜひ俵山に遊びにきてください。何かおもしろい出会いがあるかも知れません。





井澤 美空

私は小さい頃からスポーツが大好きで、小・中学校はバスケットボール、高校・大学・実業団はフィールドホッケーに熱中していました。特にホッケーにおいては、青春時代の全てを注ぐような生活を送ったことで体力や精神力、協調性等、様々な力が向上し、かけがえない経験ができました。しかし、勝ちにこだわること、一つのこと集中して取り組むこと、他人と比較すること、頑張る、努力するなど、スポーツをするにあたって当たり前と思われるような価値観に違和感を感じるようになり、人間関係においても自分だけで抱え込んで誰にも吐き出すことができない状況が続いた時、「全てのモノが怖くなる」という現象が身体に起きました。このままではいけないと、その後の人生を模索する中で、

大学時代の同級生の紹介で熊本県にある三角エコビレッジサイハテを知り、そこで暮らした衣食住を自分の手で作っていた坂井裕子との出会いが私の人生を大きく変えていきます。ゆうさんは暮らしの中にある自分の好きを全て自らの手で作る人で、この人と出会った時に、「一つに絞らなくていいんだ、やりたいこと全部やっていいんだ、この人についていきたい！」と思ったことを今でも鮮明に覚えていています。一枚の布を裁断して縫って染めた服を着ること、自分たちで作った堆肥で育てた野菜を収穫して食べることで、自分たちで住む家をリノベーションすること、暮らしの中の衣食住を自分の手で作ることがこんなに幸福度を上げることが繋がるんだということを日々実感しています。

俵山ビレッジとの出会いは2021年11月。サイハテの周年祭に俵山ビレッジのみんなが遊びに来てくれて、実際に俵山を訪れたのは翌年の5月。俵山での滞在期間中に、地域の方の優しさや俵山の町並みにどこか懐かしさを感じ、今まで封印されていた極度の「あちゃん子魂」が解放される感覚と、「ここで暮らすイメージが湧き上がってくるのを感じ、サイハテとの2拠点生活を始めました。俵山で、地域のおじいちゃんおばあちゃんたちと一緒に、いつまでも元気で楽しく過ごすために私には何ができるだろうと考えた時に、「整体師になって俵山のみなさんの健康の役に立つ」ということを決めて、整体師として活動を開始しています。3月から俵山に本格的に移住し、整体師として活動すると同時に俵山ビレッジの農業担当として、俵山ビレッジのみんなと共に暮らしの幸福度をどこまでも上げていきたい！私の新たな挑戦の始まりです。

俵山ビレッジ 1年間の ストーリー

3人で始まった
1年前から

2022年スタート



Feb.



Jan.

旅館アルバイトに来たまぎーとふみかさんを交えて、俵山ビレッジは2年目に。俵山最高峰の一位ヶ岳に登頂。ご来光と日本海まで見渡せる絶景の美しさに感動。5棟目となる物件も取得でき、**幸先の良いスタート**を切る。

Entranceのリノベーションが本格的にスタート。山口大学の学生を中心に、沢山の方が俵山に集結。かずまの誕生日には、いただきもののマグロで寿司や刺身を堪能。司法試験の勉強に専念するため、聖佳が俵山ビレッジを卒業。



Mar.

7人目8人目の移住者まぎーとみゆが合流、シェアハウス「喫茶呼」がオープン。長野県サンルーフへの家族旅行やイラムカラプテへの滞在、アースデイ東京などを立ち上げた谷崎テトラさんの俵山ビレッジ来訪もこの時期。



Apr.

俵山ビレッジと**向津具メンバーでのお花見**は大盛況。同じメンバーで主催したアースデイ向津具は初開催で約300名を動員。千代の滝でのテントサウナ体験、HANAREの畑の整備など、暮らしの営みが充実し始める。9人目の移住者むっちが合流。

約1年かけて改装してきた、Entranceの民泊スペース「**MUKU**」がオープン。オープンスペースでは宮崎の歌姫 Houちゃんのライブを開催、Entranceの物語が始まる。後に住人となるめいと多拠点住人のみくが俵山入り。灯炬庵のすぐ近くに、6棟目の物件を取得。

オーガニックコットンTシャツの開発、北九州の中学生たちの農泊受け入れ、ほたるまつり、向津具マラソン、中掃除、俵山のサイクリングPV作成、なぜか多い6月生まれの誕生日会など、**満ちる暮らし**。6人目の移住者かずまが旅に出発。7棟目となる物件を取得。



May



Jun.

他地域の移住者コミュニティや

ひすいこたろうさんのリトリート、アクセスリーディング協会合宿など、多くの人々が来訪。**HANAREで育つ野菜**も続々と収穫、ご近所へお裾分けをすると、別のものが返ってくるという豊かな日々を体感。サイハテからの縁でのりちゃんと10人目の移住者みゆきが合流。

夏の風物詩、依山温泉納涼祭で今年も地域の人たちと盆踊りを楽しみ、親睦を深める。地域からのご縁で、河川プール敷地内にてテントサウナを営業。YOU supported by みみみ食堂 & 後藤タカヒロの野外ライブ@Entranceでは、**依山温泉の歌が生まれる**。



下関 Bridgeのさとしくんと沖縄旅行。くまさんに再会、お寿司をご馳走に。LOBRAVEのLIVEでは家族もステージ上に、Saru2022では**温泉街に竹あかり**を灯す。依山の新米も堪能。11人目の移住者美佳が地域おこし協力隊に就任、12人目の移住者めいが合流。

メンバーシップ **MURABITO**が始まり、依山の可能性が広がる。依山公民館、湯の家(児童養護施設)、依山温泉合名会社の協賛でくまちゃんの人形劇を開催。ハロウィン主催、ボラスタの勇人が作った竹の部屋完成、やすし&みさこが多拠点生活を開始。

エコビレッジの仲間たちも

Entranceの飲食許可取得により、with合宿、朱理さんのリトリート、呼吸法合宿&DJたかさんのパーティー@温泉閣、斎東亮完さんとの時間など**日々充実**。6棟目のリノベや畑の改良も進み、まぎーの壺焼き芋も好評。かずまが依山ビレッジに戻り、家族みんなでお喜ぶ。

サイハテゆうさんの草木染めワークショップ、多幸の山学校あ〜り〜さんのパーマカルチャー講座、ロビンソン尚子先生&ダンさんとの対話、友人家族の滞在など、大切な来客は続く。6人で始まった2022年、15人+MURABITOという**大家族が依山に生まれる**。



そして2023年へ



地域で子どもを育む

コミュニティづくり

安藤 美祐

児童養護施設職員・チャイガール

良さ 住んで感じた田舎暮らしの

以前はソーシャルワーカーとして働いていましたが、2022年3月末に依山に移住し、事情があり家族と離れて生活している子どもの世話をする児童養護施設で働くことになりました。依山ビレッジのメンバーと従来より交流があったこと、また養護施設職員の募集に採用していただけたこと、子どもを中心としたコミュニティが実現する可能性を感じて移住しました。海や山など自然豊かな田舎が好きで、子育て支援を通じた地域活性を目指して、南房総や淡路島で暮らしていた経験もあります。初めて依山の温泉街を歩いた時、地域の規模

感、田舎らしさ、人の温かさが以前住んでいた離島の雰囲気と似ており、移住後のイメージがわきました。依山のお米をはじめ季節の食材をシェアハウスの仲間といただく時間は、特に幸せを感じる瞬間です。



あんどろ みゆ 1987年生まれ。千葉県習志野市出身。社会福祉士、保育士。大学在学中に自尊感情が低い子どもと出会い、人と環境に働きかけるソーシャルワークに興味を持つ。子育てで支援を軸に、里親支援など福祉の現場を幅広く経験し、地域で子育てするコミュニティ作りを目指している。現在は地域小規模児童養護施設の児童指導員をしながら、俵山ビレッジ住人として関わる。趣味のチャイ作りが好評で、スパイス療法研究家チャイガールとしても活動中。

趣味のチャイ作りが事業に

俵山に移住してから、趣味で作っていたチャイ(インド発祥のスパイスミルクティー)を、本格的に知人に振舞うようになりました。チャイは元々好きでしたが、自分でスパイスを調合して煮出す楽しさを知り、自分が大好きなチャイを通じて人に喜んでいただける体験をしたことから、世界がどんどん広がっていききました。「スパイス療法研究家チャイガール」という名前をひらめいてからは、イベントに呼ばれて振舞うようになったり、お土産用のチャイブレンドを作ったりしています。現在は、俵山のパン屋カミツレさんにお誘いいただき、不定期でパンの販売と一緒にチャイを提供しています。カミツレさんのパンは本当に美味しく、チャイと一緒にいただくときさらに美味しくいただけます。街中や温泉では、「チャイの方ですよね?」とお声掛けいただくようになりました。地域行事に出店させていただいたり、シェアハウスの

仲間とゲストに振る舞い喜ばれることが嬉しい日々です。今後は、俵山や長門の特産品を使ったオリジナルのチャイ商品も構想しています。

チャイが飲める温泉街の寺子屋サロン

私は地域で子どもを育てたいです。移住一年目の今は、俵山という地域をもっとよく知り、さらに魅力ある場所として発信したいと思っています。例えば、地元住民、施設の子どもたち、湯治客など、世代を超えて地域に開かれたコミュニティの場があれば、様々な価値観を持つ大人との出会いと協働体験で子どもが育まれる理想的な環境ができるのではと考えています。その事例として、俵山ビレッジでは、人形劇師のくまさんをお呼びして人形劇を開催したり、温泉街を子どもたちと歩くハロウィンパレードの企画にも関わりました。

人形劇は児童養護施設、公民館、俵山温泉合名会社との協賛をいただき実現できたもので、ハロウィンパレードも、温泉街の旅館と店舗のご協力があり開催できました。その二つのイベントを合わせて、100名を超える参加者の方に参加いただき、温泉街がとてにぎやかでした。最近の俵山は活気があり頑張っているねと近隣の評判をいた

だけるのも、私たちのやりがいにつながっています。大人も子どもと一緒に成長できる場から繋がりが生まれ、故郷となるような居場所を思い描いています。地域コミュニティを通じて、社会問題化している児童虐待を未然に防ぎ、里親の成り手と理解者を増やすことに繋がりたい。チャイはそのためのコミュニケーションツールであると感じています。





“活かし” “暮らし”

“共に生きる”ための覚悟

杵鞭 和也

プロジェクトマネージャー

カオスを求めて 俵山ビレッジへ

新潟県新潟市に生まれ、就職まで新潟で育ちました。地域には、信号機が一つ。すぐそばには阿賀野川が流れ、土手の階段を登って後ろを振り返ると、視界の端から端まで広がる田園風景に囲まれて育ちました。春は水の張った田んぼで泥遊び、夏は用水路でザリガニを探し、秋は稲刈りをしながらトンボとカエルを捕まえ、冬は雪で雪合戦。昔から自然の中で遊ぶこと、体を動かすことが大好きでした。社会人になり、東京転勤、埼玉での事業所立ち上げを経験しましたが、無意識に「生きる」お金稼ぐ「就職」などの現代の常識とされていることに違

和感を感じ始め、自分の固定観念を壊して再スタートを踏み出そう！と思い立ち、東南アジアへバックパック旅行に行くことを決意。仕事を辞め、さあいよいよという時にオミクロン株の蔓延で海外渡航に厳しい制限が。途方に暮れる中、友人の開催するイベントで繋がり、話を聞いてくれた飲み友達が無然大輔さんの従兄弟でした。「なんかよくわからんけど、従兄弟が山口で町おこしみたいなのをしてるから、行ってみたらなんか壊れるかもよ？」と今聞くととてもフワツとした一言をきっかけに俵山に遊びに来ることになりました。そこからは、あれよあれよと言う間にプロジェクトマネージャーとして移住することになり、今では、無意識に

きねむち かずや 1992年6月20日新潟生まれ。幼い頃から外で遊ぶことが大好きで、サウナ・野球・サッカー・スノーボード・ゴルフ・ウェイクボード、仲間とワイワイできることが最高の娯楽。新潟県内の企業に就職し、工事の現場管理の業務の中、東京転勤や埼玉での事業所立ち上げなどを経験したのち、2022年4月俵山へ移住し、プロジェクトマネージャーとして活動中。

自分を縛っていたものが壊れ、より自由でちよつとした力オスがある日々に、豊かさを感じながら生きています。

「できる」を持ち寄り、より豊かに

俵山では、半分は俵山ビレッジ、半分は自分のことをしながら過ごしています。俵山は街からは離れており、良くも悪くも何もありません。コンビニも無ければ、スーパーも、クリニックもありません。何度か訪れたことのある人でも、一見すると温泉しか無い町に見えるかもしれませんが、深く俵山に関わると俵山に対する見方は一変します。人の魅力に溢れ、隠れた資産がたくさんあります。みんなができることを持ち寄り、「とりあえずやってみよう！こうしたらできるんじゃないか？ここはどうすればできるかな？」こんな前向きな話が日常会話です。「ここには何も無いからしょう

がない、できない」ではなく、「無いなら作っちゃおう！こんなこともできるね、こうすればいいんじゃない？」とみんな前向きで、みんなで作る楽しさ、悩みを共有する楽しさ、作り上げて達成感を分かち合う楽しさがこの冊子を読んでもくれている皆さんとも共有できればと思っています。もちろん全てがうまくいっているわけではありません。高齢化、事業継承、空き家の増加など問題は山積みですが、人の力があれば、どんな問題も解決できると確信しています。

人を育てるではなく、人を活かす

僕と同じ新潟出身の山本五十六という偉人を尊敬しています。山本五十六の有名な言葉に「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ。」という言葉があります。これは、「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たない。

やっている姿を見守り、信頼せねば、人は実らない。」という意味なのですが、僕もこの言葉のような人間でありたいと日頃から意識しています。コミュニティでの暮らしは、日々自分の度量、器の広さが試されます。少しの事でイライラする自分がいたり、悲しんでしまう自分など、未熟な自分と対面したときに、きちんと向き合うこと。またその中で、自分や仲間の向き不向きや好き嫌いを理解していくことを大切にしています。これからは人を育てるのではなく、人を活かすことを意識し、関わる人たちと共に生きる選択肢を一緒に探したいと考えています。5年後の2027年には、人を活かし共に生きる為に必要なものをすべて作り出せる人間になります。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。読んで下さった皆さんと、これからどんな物語を描けるか、心から楽しみにしています!!





元氣と笑顔が溢れる日常を

共に過ごすお手伝い

町田 美由紀

ココロとカラダの整体師

大切な人たちのために私自身ができること

こんにちは。俵山の OSEKKA ーおかん、みゆきです。ココロとカラダの整体をしています。幼少期から埼玉で育ち、嫁ぎ先も埼玉県。夫の実家で4世代暮らしをしてきましたが、次男の産後、めでたいで起き上がれなくなり、1ヶ月実家で寝込んだことがありました。大切な子どもたち、家族のためにがんばりたいのに、動けない。ずっとこのままだったらどうしよう？というものです。すごい不安にかられたことをきっかけに、産後の心と体について学びはじめました。エクササイズやインストラクターをしてみたり、ベビーマッサージの

講師をしてみたり、子どもの心のケアやアシリテーターなどもしていました。たくさんの経験や学びの中で確信してきたものは、「自分の体は自分で守ること、大切な人たちのために自分自身を大切にすること」でした。特に、家族のために自分を犠牲にしがちなお母さんを対象に、自分を守ることが家族や大切な人たちのことを守ることもつながることをお伝えしています。お母さんが家族の幸せを願っているように、家族もお母さんの幸せを心から願っている。そんなことをお母さんたちに伝えたくて、整体やリーディング、カウンセリングをしながらココロとカラダのセルフケアをお伝えしています。

まちだ みゆき 東京都大森生まれ、埼玉育ち。男子2人の母。家族関係の悩み、自身の体調不良から、ココロとカラダの学びをする。「自分の体は自分で守る」「大切な人たちのために自分自身を大切にする」を信念とし「ココロとカラダの整体師」として、セルフケアを伝える施術、活動をしている。(一社)アクセスリーディング協会認定講師・認定アクセスリーダー、天城流湯治法湯治師、イネイト活性療法師、ロミロセラピスト。

自分自身との関係 大切な人との関係

2011年の東日本大震災。避難されている福島の方達や、福島第一原発で働く方達。たくさんの方達と関わらせていただき、様々な立場の方や自分自身の様々な思いに触れました。仲間のありがたさ。地域の繋がりの大切さ。私は、日本という国に生まれて育つて、この国が大好きだという思いにも気づきました。自分自身の心も体も辛い時期もあったけど、私が気づいたり学

んだりしたことを、周りの方達のために役立てたいと、学びを進めていた頃に出会ったのが、依山ビレッジ発起人の大ちゃんでした。その頃の私は、大好きで大切なはずの家族の愚痴しか言わないおばちゃんになっていたのですが、大ちゃんが様々なテーマの話をしながら教えてくれた「人との関係性が大切」ということについて考える中で、「全てが自分ごと、優しい世界は、本当はいつも広がっている」という視点に変化していきました。

依山の全部が私を癒してくれる

コロナで日本中でSTAY HOMEが叫ばれる中、大ちゃん、あかねちゃん、あずきが依山に移住します。「以前からの仲間たちがなんで依山に移り住んだのか？」その秘密を知りたくて、月に1回のペースで依山ビレッジに遊びに来ています。そこで体験したのは、本当に癒してくれる依山温泉の凄さ！お湯に浸かって体に触れたら……とつても元気になる！+お肌も髪もツル

ツルピカピカ。でも、元気になるのはそれだけではなくて、山に守られた美しい場所、気持ちのいい風、美味しい水、きれいな夕焼け。挨拶をする満面の笑顔を返してくれる依山の人たち。全てがここの豊かさで、都会とは違う時間の流れにも癒されています。そんな中、依山にセラピールームを作ると聞き、依山にお住まいの方や依山を訪れる人たちの末病、リハビリ、疲労などからの回復をお手伝いさせていたりたいと思い、2022年7月より住人になりました。元氣と笑顔が溢れる日常を共に過ごせることがとても嬉しいのです。心のお悩みも、お身体の事も、OSKKAーおかんみゆきにご相談ください。お役に立てたら嬉しいです。



Entrance

人と人、人と地域をつなげ、風土に根ざした新しい時代の暮らしをつくりたい。
俵山ビレッジのメンバーや仲間が、ボランティアや学生たちと共に
自らの手でリノベーションした複合施設。



2023年早春、待望の飲食スペースが完成、
「コミュニティカフェ：Entrance(エントランス)」としてオープンしました！



世代もキャラクターも多様な人たちが「対話」をしながら、日々の営みを豊かにしていく場。
俵山という地域に生まれる場が、健やかに生活していくための「入口」になるように。
この土地に足を運ぶ人たちにとって、いつでも帰ることができる「玄関」であるように。





健康や暮らし、観光やインキュベーション、様々なテーマのもとに地域内外の縁をつなぐ、Entrance。これからもどんどん新しい試みと営みを盛り込みながら、場づくりを進めていきます。

施設全体を使つての合宿など様々なニーズに対応します。

カフェバー

週替わりや日替わりで色々なジャンルの料理人やお店が登場！健康的で自然なメニューと個性豊かな会話が楽しめます。

1

シェアキッチン

プロ仕様の厨房と予約制ラウンジのあるおもてなしの場！滞在しながら貸し切り特別な友人を招いての食事会&湯治も。

2

オープンスペース

焚き火やBBQ、野外ライブやお祭り、何でもできる遊び場！地域の人やビレッジの仲間とピザ窯を囲んでパーティーも。

3

コワーキングスペース

テレワークや共同作業、仲間との学びも会議も全部OK！地方での起業ものんびりワーケーションも伴走支援します。

4

レンタルサロン

全国の様々なプロのセラピストが、健康生活をサポート！アロマや整体、名湯で湯治をしながらゆったり癒せます。

5

宿泊スペース

家族やお子様、友達と一緒に丸ごと貸し切れる贅沢な宿泊棟！キッチンやバスルーム完備で静かなプライベートも過ごせます。

6

ギャラリーショップ

健康な暮らしを感じて手にできる、展示体験型のショップ！自然素材やオーガニックの製品、作家との交流も楽しめる。

7



出展者募集！



Entranceでは料理人やセラピスト、出展者や販売者、起業志望者やイベント企画者、様々な人を募っています。地域で仲間とやりたい仕事をしてみたい人、依山ビレッジに関わってみたい人、大歓迎です！まだまだ可能性が広がるEntrance。対話しながら一緒にコミュニティづくりを楽しみましょう。お気軽にお問い合わせください。



豊かに暮らす毎日

自然豊かな地域で

伊東美佳

まちの編集者

きっかけは俵山の「新米ごはん」

私が初めて俵山を訪れたのは2021年9月。ランチで食べた新米ご飯がびっくりするほど美味しくて、温泉だけでなく、ご飯もこんなに美味しいならまた来たいと思ったことをきっかけに、再度俵山へ訪れるようになりました。そして滞在中に地域おこし協力

隊の募集があることを知り、応募。ご縁があつて、「まちの編集者」として勤務することになったのを機に移住しました。移住者だからこそ見える長門市の魅力を地域外の方に向けて発信しています。仕事を通じて長門市の様々な地域や試みを知ることができたり、人に出会うことができ、知れば知るほど長門市はいいところだなと思う毎日です。



いとう みか 神奈川県出身。東京学芸大学教育学部卒業後、広告代理店に勤務。その後、セラピスト、NPO 勤務、動画カメラマン、WEB 会社勤務など様々な仕事に従事する。現在は、自然豊かな地域で暮らしたいとの思いで俵山に移住し、長門市地域おこし協力隊「まちの編集者」として活動中。趣味は、フラダンス、泳ぐこと、読書、旅行など。



自然豊かな地域で豊かに暮らしたい

自然豊かな地域で暮らしたいとの思いは、振り返ってみると、高2でイギリス・オックスフォードへ短期留学をした経験が大きく影響しているように思います。緑豊かな大きなキャンパスで、意欲あふれる大学生たちとの共同生活で価値観が広がり、都会育ちだった私が、自然豊かな地域で暮らしたいと思うようになったり、多様な人々と出会い、関係性を育みたいと思うようになった原点です。この体験を通じて、学校外での学びや体験は人生をより豊かにしてくれるとの思いを持ち、学校外教育について学ぶため、東京学芸大学の教育学部生涯教育科に進学しました。大学卒業後は、原宿の広告代理店に就職。やりがいにはあったものの、都会の真ん中で朝から終電まで一日中過ごす毎日、これは私の理想とする生活なのかと疑問をもち、4年で退職。その後、大自然あふ

れるハワイ島で3ヶ月過ごします。ハワイ島では、若者のボランティアを受け入れ、庭の畑から野菜を採ってきてみるまで料理や食事をしたり、ヨガをしたり海で泳いだりと、自然と調和しながら健康的に暮らす人々と出会い、いつか日本でこういう暮らしを試みたいと思いつつ帰国しました。ここ俵山ビレッジは、かつてハワイ島でこういう暮らしをしてみたいと感じた暮らしに近いものがあり、俵山での暮らしを楽しんでいます。

「手づくり暮らし」を楽しむみたい

私のお気に入りの本は「地球の上に生きる」(アリシア・ペイルローレル著)です。手元に一冊だけ残すとしたら迷わずこの本を選びます。自然と調和した生き方・暮らしの指南書で、衣食住、暮らしに関することは何でも書いてあって、この本を眺めていると「自然と調和した生き方」や「手づくり

暮らし」をしなくなりません。俵山では土に触れることができたり、自分たちで育てた野菜や地域の方からいただいた野菜で料理を作ったり、手づくり暮らしをしやすい環境なので、少しずつ「手づくり」でできることを増やしてきます。ここでの暮らしを楽しんでいます。今後は、俵山でやりたいことは、来てくださった方々が温泉に入ったり、のんびり過ごすなかで心身ともにリフレッシュし、今後の方向性やビジョンを見出したり、自分にとって大切なことに気づく機会を提供することです。そしていつか、ベストセラ―「窓際のトットちゃん」に出てくるトモ工学園のような、個性を尊重し、自主性を育む自由な校風の学校などもできたらいいなとも思っています。子どもからお年寄りまで、みんなが自分らしく自分の望む人生を生きていけるような社会が実現することを願ってここで暮らしたいので、俵山に遊びに来て下さいね。



地域と人をはこぶ。

あたらしい時代に、

大西芽衣

地域開発マネージャー(見習い)

おじいちゃんの畑から見た 外の世界

地域やコミュニティへの強い関心は、幼少期の多くを過ごした「おじいちゃんの畑」に遡ります。おじいちゃんが定年退職後に趣味で始めた畑は、みかんやブドウの木、季節ごとに育てられた野菜たちが植えられており、私にとっては何もかもが豊かに感じられた最高の遊び場でした。ですが、豊かな畑とは裏腹に、「外の世界」はどんどん変わっていききました。おじいちゃんの畑に隣接していた他の畑は、気づけば草がぼうぼうの耕作放棄地になり、やがては住宅地へと変わっ

ていきました。「豊かな暮らしはここにあるのに、みんなはどうしちゃったんだろう」幼少期のそんな違和感から、地域と人を学ぶために、京都の大学へ進学しました。大学では地域開発の政策や農村について学び、長期休みは北海道のとうもろこし農園からアマゾンのジャングルまで、農村を見てまわりました。また、それらの経験を活かすため、地域やコミュニティの暮らしを作る事業者に関わらせてもらいながら、心理学も学び、起業家や同世代の学生たちと交友を深めてきたことも、今の活動へと繋がっています。

おにしめい 1995年兵庫県加古川市生まれ。京都大学農学部食料・環境経済科卒。不動産企画会社によるシェアハウス8棟の管理・運営、大手インフラ企業の新規事業開発、森林開発ベンチャーへの投資・事業開発支援等、地域に根差した企業の戦略策定から資金と人の調達、商品開発・運営まで一気通貫で伴走する、地域開発マネジメントを実践中。俵山での暮らしを基盤に、全国の過疎地へ赴いている。



あたたかい居場所

そうこうしているうちに、涙が出るほど豊かな瞬間に出逢い、大きな気づきを得ました。それは、「私はただ、大切な人たちに安心してのびのび暮らしてほしんだ」という願いです。それからは、安心して暮る居場所づくりに取り組むべく、東京に出て医療制度の改革の仕事に従事しました。社会から必要とされる素晴らしい仕事でしたが、古い制度と闘うことにだんだん疲弊していきました。その時に関わっていた静岡県のある地域で「誰かを助けに行かないで、豊かな暮らしをここで作って、みんなを迎えよう。」と声をかけてくれた方がいました。その方をはじめとする沢山の方々との関わりのおかげで、私の毎日は大きく変わっていききました。日々のほとんどを山間の集落で暮らし、朝早くから畑に出させてもらい地域の手伝いをしながら、リモートで仕事をさせていただく毎日になったのです。

自分の小さな経験を、世界中に

山奥での日々の暮らしの中の小さな体験が、大企業との仕事においてもつながっているという確信がどんどん深まっていきました。「自分も一生住む地域を見つけて、もっと大切に、暮らしを創ってきたい。」そう感じる中で、10代の頃からお世話になっていた吉武大輔さん(大ちゃん)を通じて出会った俵山が好きになりました。ここに住むことを決めました。俵山では、引き続きリモートで仕事をしながら、時

間を見つけて空き家の掃除や改装、地域の事務仕事のお手伝いをして、時々出張をしながら暮らしています。ピレッジのみんなが地域で活動する姿に勇気づけられ、おだやかな地域の方々や大切に守られてきた温泉に癒される毎日です。まだ暮らし始めて短いですが、俵山で家族をつくり、子育てするまでずっと暮らしてきたいと感じています。これからも、自身ができることで地域やピレッジに貢献しながら、暮らしを楽しみ、体験する豊かさを世界中の農村や新しい時代へ届けていきたいです。



長期滞在 × 多拠点生活



鎌形泰／美砂子

首都圏をベースに地方に開
わりながら生活している私た
ち夫婦二人。

ある暑さの続く秋の日、ま
るで散歩に出るように、長年
の友人が暮らす俵山を訪ねた。
山に囲まれ川に寄り添い佇む
湯治場の町で、今も残る情景
や風物を楽しみ味わう。静か
さに洗われた緑や青に向かい、
いつの間にか楽になっていく
呼吸。

初めての場所なのに自然で
いられる優しさが、そこには
確かにあった。

地域を舞台に自らの生活や
生き方で大切なことを育み、
共有していく。食べ語り眠り、
仲間と暮らす。そこを生きて
いる若者が作りだす、新しい
今の景色。

誰かがどこかで自然でいら
れる。ことの大きな喜びと、自分

もずっとそこにいたかもしれ
ないという感覚。

そのままの姿を共にしてく
れる彼らの存在こそが、俵山
にいる私たちに、その自然さ
を許してくれていた。

郊外のベッドタウンに菜園
を作っている。日々そこで、歩
いたり、息をしたり、言葉のな
い会話を交わしながら。幾重
にも重ねた二人の生活が、暮
らし自体が庭になったその場
所を作っていく。

野菜や草花が自然に育ち、
あたたかな土が生まれ、時間
を忘れ、どこまでが自分たち
なのか、境目が消えていく。周
りに目を向ければ、草も生え
ず飢えた鳥もこない畑もある。
ロープ一本すらそこそこを
分けているものはないのに。

どの場所も懸命に生きる人



やそれぞれの豊かさや物語が
ある。優しさや愛しさはどこ
にも溢れていることを感じな
がら私たちも生きている。

俵山に身を置き、繋がりに
暮らし合うこと。それは分
けられたかに見える何かひと
つの明るさを、また一つの光に
感じさせてくれる恵みだ。

流れ出していく光を集める
集光レンズ。他のどこかや遠く
に広がる風景も美しく映し出
す、小さいけれど大きな一団。

ふと気づけば私たち二人も、
俵山に生えていたのだ。



プロジェクトメンバー募集!!!

一般社団法人湯治マイスター協会設立!

湯治という日本文化の復興と世界への発信のため、湯治マイスター協会を発足させます。よく知られる温泉ソムリエは効能や成分と歴史について伝えますが、湯治マイスターは温泉の活用方法や生活習慣の指導も行なっていきます。本質的な健康生活や湯治と協会事業に興味ある方、一緒に湯治マイスターを輩出しましょう!

サウナ時代の健康志向サウナー集まれ!

空前のブームで日本文化となりつつあるサウナ。でも俵山温泉にはサウナがありません。現在、(株)コロナが独自開発した「ナノミストサウナ」を始め、テントサウナ、コタサウナ、モバイルサウナなど多種多様なサウナを集めた「メディテーションサウナビレッジ(MSV)」を構想中。サウナで熱い作戦会議をしましょう!

その他企画多数。詳細はこちら。

<https://www.ccj.works/pj-member/>



お問い合わせ: daisuke@ccj.works

温泉水でつくる豆腐作りにチャレンジ!

俵山温泉にはかつて「俵山豆腐・俵山味噌」がりましたが現在は製造をやめています。地元で作り続けてきたおばあちゃん、他地域で豆腐製造をする方、様々な方々と共に伝統的な食文化継承のため新しい豆腐事業を始めます。豆腐に興味あり、知り合いが経験者、健康商材開発したい、そんな方々は是非ご連絡ください!

あなたを経営企画部部長に任命します!

俵山ビレッジの経営企画を中心に課題やアイデアを資料にまとめ、戦略構築と計画立案をする。提案して得られたフィードバックをもとに事業計画書を作成。仲間の事業計画も作成したり、MURABITOのメンバーや既存プロジェクトの支援もOK! 量をこなすことが大切で、できないかはやってから一緒に考えよう!

ボランティア
スタッフ
も募集

公式LINE



公式サイト



CCJは、「コミュニティを通じて、人をつくる」を理念にしている会社です。コミュニティにおいて最も重要なのは人であり、どんな人が関わっているかで、コミュニティの文化や雰囲気が決まると考えています。俵山ビレッジでは、「人・社会・自然が調和した循環型ライフスタイルの雛形をつくる」というビジョンの元、人材育成・地域創生・起業支援・環境への取り組みなど、様々な活動をしており、ボランティアスタッフを募集しています。

詳細はCCJの公式LINEにご登録の上、ご確認ください。

俵山ビレッジと、 もっと幸せで豊かな暮らしをつくる

俵山ビレッジのオンラインメンバーシップが始まりました

俵山ビレッジのオンラインメンバーシップMURABITOは、「いつか地域に根ざして丁寧に暮らしたい。」

あなたのためにつくられました。

あなたと周りの方々がもっと幸せで豊かになる暮らしは、今いる場所から、少しずつ作ってゆくことが可能です。

「暮らしを作る体験」を、MURABITOで一緒にしましょう！

MURABITO

暮らしを作る体験を共有したい

MURABITO(ムラビト)で共有したいのは、「自分たちの暮らしをみずから作る」豊かさです。人口が集中する都市圏では、勤める会社によって働く場所や時間と仕事の内容が決まり、住む場所は家賃によって家の大きさが決まり：暮らしは「誰かが決め提供してくれるもの」という感覚の方が強いのかもしれません。しかし人口がどんどん減り、まちのインフラが少しずつ古くなってゆく地域では、暮らしは「自分たちで作る守るもの」。消防団による火事の見回りや、地域の掃除、神社のしめ縄づくりなど、まちが受け継いできた文化や歴史、土地は、地域に住む人たちが自ら手を動かし守ってきました。地域の担い手が少なくなってゆく昨今で、自分たちや次の世代が残したいものは、自らの手で新しい形につくり変え、維持してゆく必要があるのです。

一見、大変そうかもしれませんが、「自分たちにとっての幸せ」を暮らしの中で体現するチャンスであるようにも感じます。そして、一人でやるのではなく、「コミュニティ」の力で暮らしを豊かにしてゆくことは可能です。

伝統ある湯治場の町に溶け込みながらコミュニティを運営する

私たち俵山ビレッジは、1100年前から続く湯治場である俵山地域の湯町地区という温泉街にある7棟の不動産を受け継ぎ、自分たちで掃除し改装したりして手を入れながら地域の方々と助け合って生活しています。「誰かに貢献したい」「自分にも他人にも、人間にも自然にも優しい暮らしがしたい」という価値観に共感した人々が全国各地から移住し、日々丁寧に暮らしています。人里離れた場所でも、気心知れた仲間たちだけの理想郷を作るのではなく、暮らしている方々がいらっしやる中に溶け込み暮らすことは、難しさはありつつも多くの発見があります。俵山ビレッジに移住してきた人々は、全国各地を旅するように生きる人が多かったのですが、「100年後やともに地域で生きる人々のことを思う」ことが暮らしの隅々に行き渡っている地域の方々との触れ合いによって、価値観や行動が変化し始めています。人や自然への配慮、自分と他者とのバランスなど、地域との関わりによって磨かれています。

暮らしにまつわる試行錯誤があなたの日常も豊かにする

こんな方はMURABITOになって、俵山ビレッジの暮らしをのぞいてみてください。

私たちの毎日の取り組みを「いつかは自分たちの理想の暮らしをしてみたい」と感じる方々に共有することで、俵山地域だけではなく多くの地域で、コミュニティが地域に溶け込んで暮らしてゆくことに、貢献していきたいと考えています。俵山での出来事や移住者との交流を通して、自分にとっての豊かさや大切なことに気づき、今ある暮らしを変えるエネルギーを得ていただけたらと思います。

- ✓ 実家や所在地とは別に「帰ってくる居場所」がほしい
- ✓ 地域の文化や資源を残していく活動がしたい
- ✓ 自分の手で暮らしをつくる体験がしたい
- ✓ 移住に興味があり少しずつ準備を始めたい

MURABITO
で
できること

MURABITO 通信で最新情報をお届け

1泊2日の無料宿泊券で年に1回は湯治へ

俵山ビレッジのプロジェクトに参加

「いつか」自分に合った地域を見つけてつくりながら住んでみたいなら、
「今」いる場所から、俵山ビレッジを応援し、村づくりに参加してみませんか？

月額約916円からご参加いただけます。



murabito.studio.site

